

(最優秀おはなしエンジェル賞 小学生中高学年の部)

からだ銀行

小五・柴田 更紗

「翼、まだベッドの上でピョンピョンしてるの！お姉ちゃんが起きちゃうでしょ。もう十二時なんだから、いいかげん寝なさい。」

今夜も弟の翼は怒られている。翼は小学二年生。何のとりえもないが、元気だけはある男だ。学校でも休み時間は外で走り回って、帰ってきたら、毎日スイミングやサッカー教室に通っている。それなのに、元気が余っていて、眠れないようだ。お母さんはそんな弟に疲れはてている。

ある日、うちの近所に新しい銀行ができた。からだ銀行といって、なんとお金じゃなくて、体力を貯めたり、借りたりできるらしい。うわさを確かめようと、家族で銀行に行ってみた。説明を聞くと、貯力口座を作るには、保険証を見せて、身体計測と体力テストを受けるそうだ。ために体力テストを受けてみると、銀行の人たちが翼を見つめながら、

「こりやすごい、億力長者だ！」

と騒ぎ出した。そのまま、支店長室に通され、

「お宅の翼様の体力は、計りしれません。ぜひ、すぐに口座を作ってください。」

と言われてびっくり。翼は出されたお菓子とジュースに夢中だ。ちなみに、お父さんとお母さんはごく普通。私なんて平均以下。どうして翼だけ、こんなに体力があるんだろう。

言われるままに口座を作り、パワーカードをもらってきた。このパワーがあれば、いつでもどこでも体力を操作できる。余った体力を貯めるときは赤ボタン、預けた体力を使うときは青ボタンを押し、体にチャージ。窓口では余った体力をあめ玉にしてくれて、好きなきに食することもできる。パワーは本人しか使えないけど、体力あめなら家族も効果がある。他の人から体力を借りたいときは、窓口に行って、口座でやりとりする仕組みだ。

その日から翼はどんどん体力を貯め、一週間で億力長者になった。体力が余っていないから夜は八時に寝る。お母さんは大喜びだ。「あまり動かなくて疲れないのか、眠れない。」と言っていたおじいちゃんは、余った体力を貯めることで、ぐっすり眠れるようになった。

からだ銀行はあつという間に大ブーム。町のみんなは運動をしなくなり、スポーツジムや運動教室は休止になった。体をきたえなくても疲れがとれたり、元気が出たり、調節が簡単になったからだ。学校のみんなもうまく体力を貯めたり、使ったりしている。私も普段は貯めていて、体育のある日に使っている。疲れや軽い風邪くらいなら、パワーがあればすぐに回復できる。運動会の日は、パワーでいつもの体力の二倍チャージしていった。それでも体力の少ない私は、お昼ごはんのときにはへとへとだ。パワーで再チャージしようとしていると、翼が、「たくさんあるからあげるよ、お姉ちゃん。」と体力あめをくれた。翼の体力あめはさすがに濃厚で、一気に元気が出てきた。

こんな日々が続いていたが、最近ある問題が出てきた。体力ハッキングだ。ハッカーが銀行のコンピュータに侵入し、貯力口座の体力を盗んでしまうのだ。

ある日、学校から帰ると、家の前にパトカーがとまっている。びっくりして玄関に入ると、お母さんは泣いていて、お父さんも会社から帰ってきている。警察官が、

「翼さんが、下校中に誘拐されました。」

「どうして、翼が！」

「最近問題の体力ハッキングで、翼さんが億力長者だとバレたみたいですよ。おそらく、翼さんの体力をお金にかえるつもりでしょう。」

翼のパワカを追跡したところ、チクチク山に向かっている。助けに行きたいが、チクチク山は道が悪く、車は入れない。ヘリコプターも今日は風が強いからとばせないらしい。銀行のコンピューターは壊されたから、体力チャージもできず、警察は助けにいけない。

どうしよう。私も学校帰りで、もうへとへとだ。あ。そういえば、翼は部屋でダンスあめしてたような……。部屋を探してみると、ダンスの一番上の引き出しは、体力あめでいっぱいだった。翼、待ってと体力あめを次々にほおばっていたら、お父さんとお母さんが、自分たちも行くと言い出した。泣きすぎのお母さんは家にもいてもらい、お父さんと二人で翼を助けに行くことになった。

チクチク山はその名のとおり、ちくちくした植物が地面をおおいつくしている。翼の体力あめのおかげで、二人とも木の枝をつたって山の頂上へどんどん進んでいく。犯人たちはきつと、翼の体力を引き出していたのだろう。無我夢中で進んでいくと、山の頂上に小さな小屋があった。

「あー疲れた。銀行のコンピューターを壊したから、警察もしばらく来れないな。この坊主がいれば、オレたちは大金持ちだぜ。」

中から、犯人たちの浮かれた声がする。今がチャンスだ。もう一
個体力あめを食べて、お父さんとフルパワーで扉にぶつかった。ヤ

ツらは油断していたから、あつという間につかまえることができた。

「翼、大丈夫？」

「えっ、お姉ちゃん、このクッキーすごくおいしいよ。ほら。」

クッキーにつられて連れてこられた翼は、誘拐に気づいていなかった。

この事件がきっかけで、からだ銀行は倒産してしまった。町のみんなもパワカにたよっていたことを反省し、体調にも気をつけて運動するようになった。スポーツジムも営業再開だ。普通の小学生に戻った翼は、またスイミングとサッカーを始めたが、今日も遅くまで起きていて、お母さんを困らせている。

私は体力をつけるために、ダンスを始めた。おじいちゃんは、眠れるようにウォーキングを始めた。からだ銀行は便利だったけれど、これでよかったのかな。体を動かすと、疲れるけどスッキリする。楽しんで元気になるより、自力で運動したほうがいいね。みんなも運動をしながら、自分の体を丈夫にしていこう。



画：小泉るみ子